

仙人通信 190 長九郎山(995m)

長九郎山は伊豆半島の堂ヶ島と河津のほぼ中間に東西に延びる尾根の最高峰で、5月には石楠花が一面に咲く事で知られた三等三角点の山である。

松崎と下田を結ぶ県道 15 号線にある花の三聖園(道の駅)に車を置き、大沢の登山口から山頂をへて池代へ下山し、県道 115 号線に戻るコースとした。

車から 5 分程歩くと左手に池代川に架かる橋があり、桜並木の池代川に沿って 10 分程進むと、左手に長九郎登山口を示す大きな表示板である。手前の沢沿いの道を曲り、沢に掛かった小さな橋の横に、登山口を示す道標と登山カードを入れる箱が設置されている。

その先には、倒木やがけ崩れの危険があり、入山禁止の表示板である。しかし、ガイドブックにあるコースでもあり、注意しながら入山した。民家側には猪防止のヘンスが設けられ、秋に散った落葉や枯れ枝が、又猪が餌を求めて掘り起こした枯葉や土が進路を塞ぐ。

稍等に捲かれたコースを示す赤いテープを確認しながら慎重に進む。尾根に出ると思っていたのだが、池代川に沿っての南斜面の登りである。落葉樹の林で明るいコースであるが、ゼンマイ状の新芽を付けたオシダが生い茂りその上、人の踏み跡が殆ど無い状態である。赤いテープを見つけては尾根に出る事に注意し進む。約 1 時間で尾根に出る事ができた。

更に 5 分程進むと山頂と南の沢に向かう大沢を示す道標である。どうも焦って尾根に、出てしまったようだ。コースは尾根の北側で枯れた木の枝や枯葉で埋まり、こちらも注意が必要だ。大きく U ターンし大野山を捲き進むと、先が明るくなり展望台である。ここまで 40 分程だ。婆娑羅山方面と松崎が望める。ほぼ尾根上のコースとなり小さなピークが連なり丸太の階段や橋が続く。木が切り開かれ陽だまりでは、スマレ・ヤマルリソウ・トウダイグサが、近くでは白いヤマザクラ・アセビ・マサカキやツバキの赤い花が元気をくれる。

1 時間半ほど経つだろうか宝蔵院 3k m の表示である。何とここにも大沢方面入山禁止の表示である。ここからは整備された檜林のコースとなり、1 時間程で林道が通る八瀬峠だ。

両股に痛みを感じ、歩くスピードが落ちてしまい、45 分程を要して山頂である。

山頂は、狭い上に木々に覆われ展望台に登らないと周囲の山脈等は望めない。気温が上がり、霞が出て富士山や大島等を見る事が出来ず残念であった。休憩後尾根筋から 25 分程で最初の林道へ、更に 30 分程でワサビ田に出る事が出来た。この間に硫黄の匂いするとガイドにあるが感じとる事はできなかった。綺麗に整備されたワサビ田の横では白い花桃・サクラシャガ・ワサビの花が春を奏でる。30 分程で 2 度目の林道の安田橋だ。この林道を 25 分程進むと檜林に登山道は入る。15 分程で林道に出て更に 15 分程で池代のバス停に到着だ。バス停近くでは、花びらの先が釣り糸状となったウラシマソウにも癒されましたが、予定時間を 1 時間半も越えた 6 時間半の登山となってしまいました。(h 31.3. 28)

大沢登山口表示 尾根筋の階段



山頂



ワサビ田

